

平成20年7月4日

教員の公募について

このたび本研究科では、下記の要領で教員の公募を行うことになりました。熱意と意欲のある方はぜひご応募下さい。

東北大学大学院文学研究科長
原 純 輔

記

1. 職名・人員 助教 4名（下記専門分野ごとに1名採用）
2. 所属講座等 文学研究科グローバルCOE・社会階層と不平等教育研究拠点
（グローバルCOEの概略については別紙をご覧ください。）
3. 専門分野 (1)社会階層・社会移動、(2)東アジア、(3)マイノリティ（含ジェンダー）、(4)公正
4. 職務 (1) 専門分野に関する研究及び講義・演習
(2) COEフェロー・COE大学院生の研究指導
(3) グローバルCOEの組織運営への従事
5. 採用予定年月日 平成20年11月1日
6. 任期 グローバルCOE経費が支出される期間（平成25年3月31日まで）
なお雇用契約は単年度契約の年度更新とする。
7. 応募資格 (1) 博士の学位を有する方
(2) 上記専門分野に関する深い見識と業績を持ち、この分野に関する教育を熱意をもって遂行できる方
8. 応募期限 平成20年9月1日（月）消印有効
9. 提出書類 (1) 履歴書 1部（市販の用紙を使用し、3ヶ月以内に撮影の写真を貼付のこと）
(2) 研究業績一覧 3部（著書、論文、口頭発表、その他、に区分のこと）
(3) 主要研究業績5点以内につき、各400字程度で記した要旨（A4版用紙使用） 3部
(4) 上記主要研究業績5点以内のオリジナルもしくはコピー 各3部
提出書類は返却しない。返却希望の場合は返信用封筒を同封すること
(5) 着任後の教育・研究に関する抱負（応募する専門分野を明記すること。2000字程度） 3部
(6) 健康診断書については、後日提出を求めることがある。
10. 選考方法 提出書類により選考の上、指定の場所・日時で面接を行う（旅費等は本人負担）。
11. 書類提出先 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科長 原 純輔
封筒に「グローバルCOE助教応募書類」と朱書きし、簡易書留郵便または書留郵便で送付のこと。
12. 問合せ先 東北大学大学院文学研究科グローバルCOE拠点リーダー 佐藤 嘉倫
（電話：022-795-6036, Fax：022-795-5972, E-mail：ysato@sal.tohoku.ac.jp）

◎東北大学大学院文学研究科では、男女共同参画を推進しています。

子育て支援の詳細等、男女共同参画の取り組みについては下記 URL をご覧ください。
<http://www.bureau.tohoku.ac.jp/danjyo>

以上

東北大学文学研究科グローバル COE プログラム 「社会階層と不平等教育研究拠点の世界的展開」概要

〔拠点形成の目的〕

本拠点の目的は、格差問題を中心にした社会階層と不平等の教育研究を世界的に展開することである。社会階層と不平等とは、社会を構成する集団間で望ましい資源（収入や財産など）やそれを得る機会が不平等に配分されていることを示す概念である。そして近年、社会問題となっている格差問題は、まさに社会階層と不平等が端的に現れている社会現象である。この格差問題をめぐっては次の3つの問題群がある。(1)格差の実態を解明する実証問題、(2)格差を生み出すメカニズムを解明する理論問題、(3)格差がもたらす社会的影響を解明し、政策提言を視野に入れた帰結問題の3つである。これらの問題群に学際的・融合的に取り組むために、社会階層と不平等の構造と変動研究部門、東アジア研究部門、マイノリティ研究部門、公正研究部門、国際移動研究部門の5つの研究部門を設置する。各研究部門における研究活動に加えて、拠点全体のワークショップや国際シンポジウムを通じて、研究部門間の有機的連携を推進する。またスタンフォード大学貧困と不平等研究センターとの貧困の国際比較プロジェクトを立ち上げ、絶対的貧困から見た格差の問題群にも迫る。

教育面においては、COE フェロー（ポスドク研究者）を世界的公募により採用し、COE 大学院生を公募により採用する。そしてこれらの若手研究者に対して、正副アドバイザーによる複眼的指導、COE 特任助教によるきめ細かい研究指導、ワークショップにおける英語での報告、国際学術交流協定を活用した留学の奨励、国際シンポジウム開催の奨励、独立した研究を推進するための COE 特別研究奨励費支給、リサーチアシスタント雇用による経済的保障、連携機関であるスタンフォード大学貧困と不平等研究センターと共催するサマースクールへの参加、などの教育プログラムを提供し、それらを通じて「世界で活躍する、タフで独創的な人材」を輩出することを目指す。

〔拠点形成計画の概要〕

・拠点の運営体制

本拠点は、拠点統括オフィス（オフィス長：拠点リーダー）、COE 人材育成オフィス、COE 研究推進オフィスという、3つの運営組織によって教育研究プログラムを推進していく。拠点統括オフィスは COE 人材育成オフィス・メンバーと COE 研究推進オフィス・メンバーからなり、拠点の基本的方針を決定する。COE 人材育成オフィスは、オフィス長と数名の事業推進担当者、COE 大学院生・COE フェローの代表者からなり、教育プログラムの作成や改定を行う。COE 研究推進オフィスは、オフィス長と各研究部門長からなり、各研究部門の進捗状況をチェックし、部門間の有機的連携を促進する。

・拠点の教育活動

拠点形成の目的のところで述べた教育プログラムにより、世界で活躍する、タフで独創的な人材を育成する。そのためには、独創的な研究を自立した環境で推進し、その研究成果を国際的に発信する力を養成する必要がある。上述した教育プログラムはこのことを実現することを目的としている。特に、英語によるワークショップでの報告と国際シンポジウムのオーガナイズは、COE フェロー・COE 大学院生にとって、大きな負担ではあるが、世界の同世代の若手研究者に負けないだけの能力を養う機会となる。またスタンフォード大学貧困と不平等研究センターと共催するサマースクールでは、両機関の教員が最先端の研究を報告するだけでなく、大学院生が自分の研究プロジェクトの報告をする。シンポジウムや国際会議とは異なり、時間的にも精神的にも余裕のある雰囲気の中で議論をすることで、優れた博士論文の執筆につながるだけでなく、将来の知的ネットワーク形成の基盤ともなりうる。

・拠点の研究活動

本拠点の特徴は、多彩な人材を世界から集結して、その集積効果により、社会階層、不平等、格差の問題に取り組むことにある。このことを実現するために、拠点メンバーを上述の5つの研究部門に配置し、多面的に格差の問題群の解明に取り組む。また拠点全体のワークショップを定期的で開催することで、研究部門間の有機的連携を促進する。スタンフォード大学貧困と不平等研究センターとは貧困の国際比較プロジェクトを共同で実施し、日本の格差問題を国際的に位置づける。

・拠点の評価体制

社会階層と不平等研究の第一人者からなる外部評価委員会を設置し、外部評価を実施する。また、文学研究科評価分析室が、本プログラムとは独立した内部評価を行う。拠点内部では、拠点統括オフィスが自己点検を行い、COE 人材育成オフィスは COE 大学院生・COE フェローの研究進捗状況をチェックする。このような評価体制により、必要に応じて本拠点の教育研究活動の方向を修正していく。